

リーディングDXスクール事業【実践事例】

嘉手納町立嘉手納中学校（沖縄県）【指定校】

<教育利用> ⑧「三単現 “s” の学習《英語》」

校種	小・中・高	校務・授業	みんなで生成AIコース(ChatGPT) テキスト生成、画像生成、動画生成	実践タイトル:《英語》三単現 “s” の学習
----	-------	-------	--	------------------------

学年・教科	1年・英語	単元等	三単現 “s” の学習(2時間構成)
本時のねらい	三単現の“s”に気をつけながら、イラストを参考にその人物の説明ができる。		
使用するICT教材	スライド・スプレッドシート・Chat GPT(みんなで生成AIコース)		
授業の流れ			
【1時間目】		【2時間目(本時)】	
<ol style="list-style-type: none"> 1. Greetings / めあての確認・自己評価シート記入 2. 生成AIの使い方についてのおさらい 3. 課題の説明 4. 課題①に取り組む 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Greetings / めあての確認 2. 各自のペースで課題に取り組む 3. 課題①が終わったら提出⇒課題②に取り組む 4. 自己評価シートの記入 	
授業のポイント			
【課題①の進め方】			
<ol style="list-style-type: none"> ①スライドにある人物イラストを参考に3文～5文程度自力で英文を書く。 ②自力英文をコピーし生成AIへ添削依頼。 ③生成AIが添削した内容をスライドへコピー。 ④自力英文とAI添削(AIアドバイス含む)を比較し、自分の間違いを見つけ工夫しながら訂正する。 			
①～④を繰り返し6つの課題に取り組む。			
生徒は各自のペースで課題に取り組むことができた。中間層以上の生徒は学習スピードが向上し、提出されたスライドからは、三単現の「s」を忘れることが減少していることが確認できた。一方で、学習が遅い生徒(Slow Learners)には、教師や学習支援員が個別にサポートし、彼らも効果的に課題に取り組むことができた。課題①が完了した後、生徒たちは課題②に取り組んだ。この課題②では、生徒が自分の興味ある人物などを選び、それについて自由に表現する内容とした。課題②でも、生徒たちは生成AIを上手に利用して、自発的に学習を進めることができた。			

1. イラストからわかる内容を英語で説明しましょう。



自力英文

His name is Jack. He lives in Canada. He speaks English and French. He likes pancakes. He plays ice hockey.

生成AIに文法チェックしてもらった内容(コピー)

- His name is Jack. He lives in Canada.
- He speaks English and French.
- He likes pancakes. He plays ice hockey.

Jack / Canada / English & French

4. イラストからわかる内容を英語で説明しましょう。



自力英文

Her name is Yona. She lives in South Korea. She speaks Korean and English. She likes kimchi. She plays basketball.

生成AIに文法チェックしてもらった内容(コピー)

- She lives in South Korea.

Yona / Korea / Korean & English

1つ目の課題で三単現 “s” の指摘を受けた。2つ目以降からは三単現 “s” の間違いはみられない。しかし、スペルミスやそれ以外の間違いは確認された。

【パイロット的な取組の段階】
② 使い方を学ぶ段階

【実践概要】左記の通り
【入力したプロンプト】
生徒Aのプロンプト
私の英文を文法チェックしてください。Her name is Arisa. She lives in Fukuoka. She likes sushi. She is 17 years old. She speaks Japanese.
Your sentences are grammatically correct. However, I would suggest a minor revision to make the sentences flow more smoothly:

- Her name is Arisa, and she lives in Fukuoka.
- She likes sushi and is 17 years old.
- She speaks Japanese.

These revisions maintain the same meaning but improve the overall readability of the sentences. Great job!

添削した英文は英語のままでもいいのですが、説明文は日本語のほうが助かります。
その後は、英文添削+日本語での解説のやり取りが続いた。

実践のふり返り
【成果】生徒はそれぞれのペースで生成AIにリアルタイムで添削指導を受けながら課題を進めることができた。また、生成AIとのやり取りを重ねるごとに文法ミスは減り、スペルミスの指摘を受けるだけの生徒がほとんどであった。
【課題】Slow Learnersにとっては、自力英文⇒生成AIの添削⇒ミスの訂正といった一連の活動は大変だった様子。しかし、それでも粘り強く続ける様子も見られた。AIがEllyという名前を「女性の名前」ととらえ、数名の生徒がElly(boy)の英作で“He”を“She”に訂正された。生徒は、その指摘を素直に受け入れ“She”と訂正した。教師が「本当にこの表現は正しいの？」とたずねると、画像の人物が男性であることに再度着目し“He”に書き換えた。その際に、以前行った生成AI導入授業を取り上げ、生成AIからの提案を確かめることの必要性についても触れることができた。